2026年12月期第3四半期

決算説明資料



本資料の構成

2026年12月期第3四半期業績について …… 2

2026年12月期 通期業績予想について…… 9

株主還元…… 11

今後の事業展開…… 13

APPENDIX…… 19

2026年12月期第3四半期 業績について

連結損益

売上高7,124百万円（前期比2.4%減）、営業利益564百万円（前期比24.1%増）

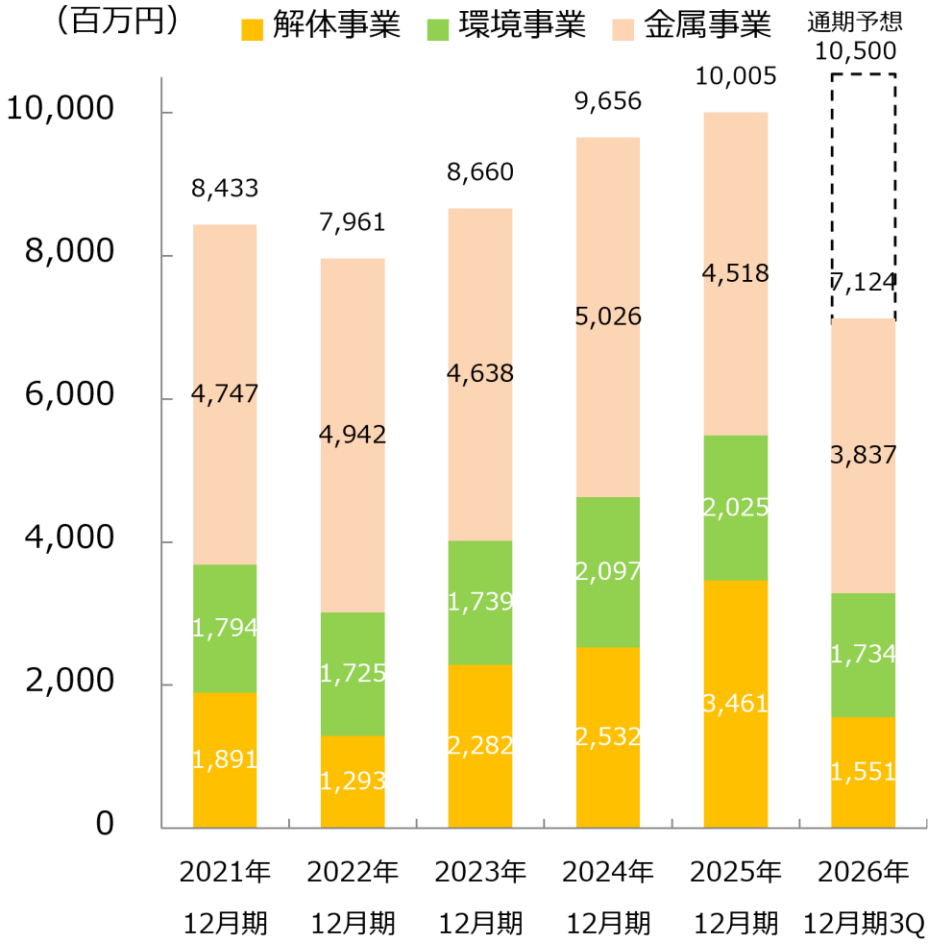
- 鉄スクラップ相場は前年同期から概ね22%高い水準にて推移
- 解体事業が減収・増益、環境事業および金属事業が増収・減益
- 設備投資に伴う借入利子の増加があるも、営業利益の伸びにより経常利益は増益。前期の㈱ミツエ子会社化に伴う負ののれん発生益の反動があり親会社株主に帰属する四半期純利益は減益

単位：百万円

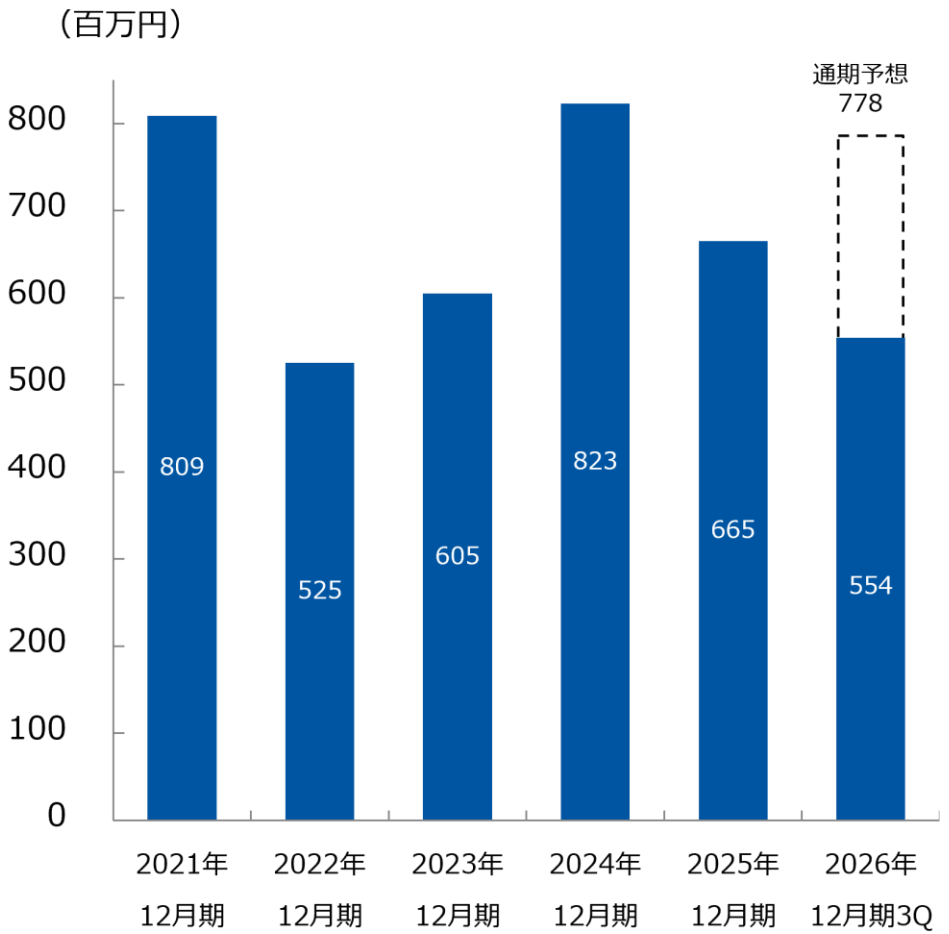
	2025年12月期3Q	売上比	2026年12月期3Q	売上比	増減額	増減比
売上高	7,296		7,124		△ 172	△2.4%
営業利益	454	6.2%	564	7.9%	109	24.1%
経常利益	471	6.5%	554	7.8%	83	17.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	429	5.9%	368	5.2%	△ 60	△ 14.2%

業績推移

売上高（連結）



経常利益（連結）



事業セグメント別ハイライト

解体事業

- 新規着工案件の減少で減収
- 前年同期に特定案件で多額の工事原価を計上していたことの反動で増益

環境事業

- 産業廃棄物処理受託の取扱量、再生資源販売量の取扱量はともに堅調。スクラップの期中平均相場が前期を上回ったことで再生資源販売が牽引し増収
- 有価物の仕入価格の上昇、および有価物を多く含む廃棄品処理の大型案件が前年同期に発生したことの反動等により減益

金属事業

- 鉄スクラップ価格が前期より高い水準で推移したこと、および銅スクラップ価格が上昇したことにより増収
- 近隣の大型解体工事等から発生する老廃スクラップの加工減、およびスクラップの仕入数量の増加と仕入価格の上昇等により減益

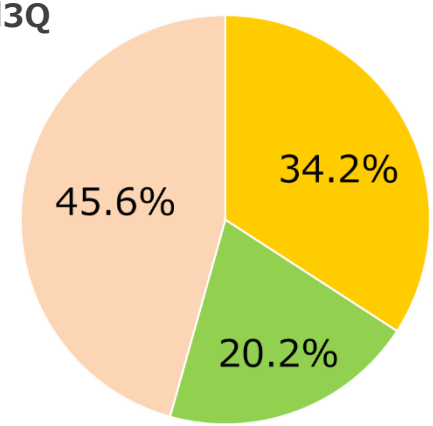
連結セグメント別業績（売上高）

- 解体事業は新規着工数が伸び悩み減収
- 環境事業の処理受託量、再生資源販売量は堅調、金属事業のスクラップ取扱量が軟調であったがスクラップ平均相場の上昇により増収

単位：百万円

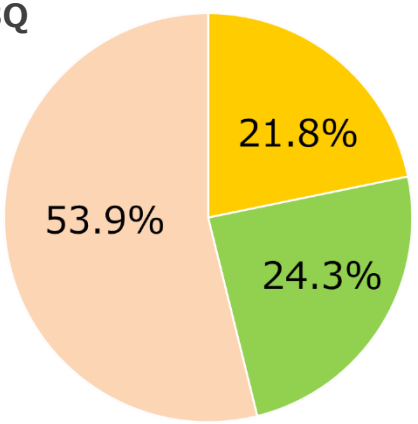
セグメント	2025年12月期3Q	構成比	2026年12月期3Q	構成比	増減額	増減比
解体事業	2,492	34.2%	1,551	21.8%	△ 940	△ 37.7%
環境事業	1,474	20.2%	1,734	24.3%	260	17.7%
金属事業	3,330	45.6%	3,837	53.9%	507	15.2%
合計	7,296	100.0%	7,124	100.0%	△ 172	△ 2.4%

2025年12月期3Q



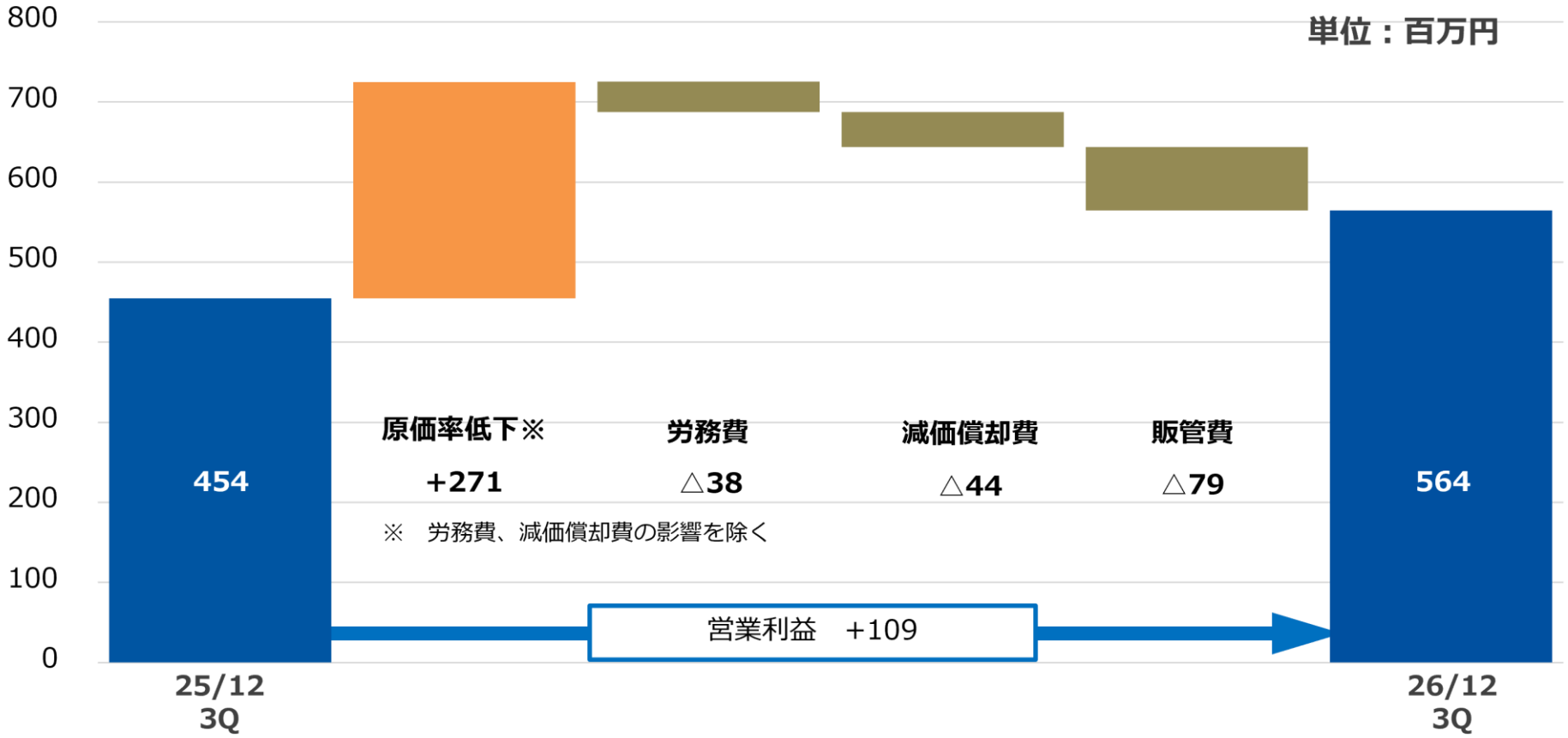


2026年12月期3Q



営業利益の増減要因分析

- スクラップ相場の上昇に伴うスクラップ仕入高の増加があるも、解体事業において前期に多額の工事原価を計上していた反動による影響で原価率が低下
- 従業員の増加等により労務費・販管費が増加
- 超大型解体用重機の追加導入が前期の9月にあり、以降の減価償却費が増加



連結貸借対照表

利益計上と配当金支払いの他、完工時に精算する条件の大型案件の売上債権を回収。大型案件の契約負債の受入もあり現金及び預金が増加。有利子負債の返済に充てる

単位：百万円

	2025年12月期末	構成比	2026年12月期3Q	構成比	増減額	増減比
流動資産	3,647	45.0%	4,104	48.5%	457	12.5%
現金及び預金	1,672	20.6%	2,798	33.1%	1,125	67.3%
受取手形、売掛金及び契約資産(含完成工事未収入金)	1,721	21.2%	922	10.9%	△ 799	△ 46.4%
固定資産	4,458	55.0%	4,357	51.5%	△ 100	△ 2.3%
有形固定資産	3,680	45.4%	3,547	41.9%	△ 132	△ 3.6%
無形固定資産	23	0.3%	14	0.2%	△ 8	△ 39.1%
投資その他の資産	754	9.3%	795	9.4%	40	5.4%
流動負債	1,358	16.8%	1,660	19.6%	301	22.2%
買掛金	434	5.4%	505	6.0%	70	16.4%
工事未払金	162	2.0%	165	2.0%	2	1.9%
固定負債	1,599	19.7%	1,368	16.2%	△ 230	△ 14.4%
純資産	5,147	63.5%	5,432	64.2%	285	5.5%
株主資本	4,914	60.6%	5,177	61.2%	263	5.4%
総資産	8,105	100.0%	8,461	100.0%	356	4.4%

2026年12月期 通期業績予想について

2026年12月期　通期業績予想

連結損益の予想

単位：百万円

	2025年12月期	2026年12月期	増減額	増減比
売上高	10,005	10,500	495	4.9%
営業利益	643	800	157	24.4%
経常利益	665	778	113	17.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	598	524	△ 74	△ 12.4%

今後の見通しについて

- 2026年度第4四半期は、引き続き企業による生産活動や設備更新の需要は徐々に回復に向かうと想定
- 鉄スクラップ等の相場については、脱炭素を背景とした世界的な電炉への傾斜が予想されることから中長期的には上昇を予想するが、短期的には上値が重く2026年度中は現在の水準を維持するものと想定
- 非鉄金属相場はここ数年上昇基調にあるが、2026年度中は現在の水準を維持するものと想定

株主還元

1株あたり配当金

	2024年12月期	2025年12月期	2026年12月期（予想）
1株あたり配当金	32.0円	32.0円	32.0円

（利益配分に関する基本方針）

株主の皆様への安定配当を継続することを基本としつつ、将来の事業展開と財務体質の強化のために必要な内部留保の充実を勘案して配当を実施

今後の事業展開

今後の事業展開の基本的な考え方

イボキンの強みである、解体・環境・金属の3つの事業によるワンストップサービスを推進させるため、地域的な制限のない解体事業を成長エンジンとしつつ、環境・金属事業の事業地域を拡大するため、バランスよく資源を配分する方針

成長エンジン 解体事業

【メインテーマ】
大型案件への対応能力・信頼性の獲得

- ◆ 大型解体案件にかかる技術の開発と蓄積
  - ✓ 風力発電所解体事業の推進
  - ✓ 提案力・ドキュメント能力向上
  - ✓ 組織改編を伴う専門化と分業化
- ◆ 営業拠点の増設

安定した経営基盤 環境事業・金属事業

【メインテーマ】
事業エリアの拡大と営業企画部門の設置

- ◆ 事業領域の拡大
  - ✓ 営業拠点の増設
  - ✓ 新ヤードの確保
  - ✓ M&Aの積極推進
- ◆ 地元関西圏の解体案件の受注に注力する営業体制の強化

- ◆ 事業拡大を支える人材の確保と育成
- ◆ 先端技術への投資を活発化させ、リサイクル業の変革をリード
- ◆ 環境負荷の見える化及び低減を行い、取引先企業の情報ニーズへ対応

労働集約産業から
知識集約産業へ転換

新たな事業拠点の展開について

環境・金属事業

大都市圏型のビジネス拡大

- ◆ 大都市圏型ビジネスが好調
- ◆ 阪神事業所の機能を強化
- ◆ 同事業所の機能拡大となる拠点の開設準備を開始
  （次頁にてご説明）

解体事業

東京支店・大阪支店の状況と今後の支店開設

- ◆ 東京支店にて大型案件の獲得実績が増加
- ◆ 大阪支店開設により顧客へのアクセス増
- ◆ 東京支店・大阪支店の増員を計画
- ◆ 他の都市での支店開設も視野に入れる

新たな事業拠点の展開について

阪神地区に新工場

大都市圏型のビジネス拡大

- 営業活動が奏功して阪神事業所（兵庫県尼崎市）の稼働が高水準となり、現行体制での処理能力を最大限発揮している状況
- 2025年12月に大阪市住之江区に工場用地（約900坪）を取得
- 阪神事業所と同様の機能を持ち、大阪南部エリアをカバー。また、たつの市の工場と連携した事業を推進する上で、前処理工程を受け持つ
- 2028年度の開業を目指し準備中

解体事業の施工体制の拡充

株式会社ミツエの子会社化

- 兵庫県内での施工体制強化
- 保有する大型重機の機動的な活用
- アスベスト除去工事の内製化

超大型建物解体専用機の追加導入

- 1号機を上回る規模と性能を有する2号機を2025年9月に導入
- 今後は複数保有がもたらす機動力に磨きをかけ、解体用アタッチメントの充実を図る



工事に伴うCO_2排出量等の算定

- 工事ごとのCO_2排出量を算定し顧客に提供
- 解体に伴うスクラップのリサイクルによるCO_2の削減貢献量を算定し顧客に提供

技術開発について

超大型重機を使用した杭抜き工法の開発

- 解体対象物の地下にある杭のうち、杭抜き機による従来工法では撤去が困難なものに対し、弊社保有の超大型重機を使った工法を開発
- 従来工法よりも高い安全性
- 特定の条件下で大幅に効率化
- 特許出願し、技術をアピールした結果、引き合いが増加



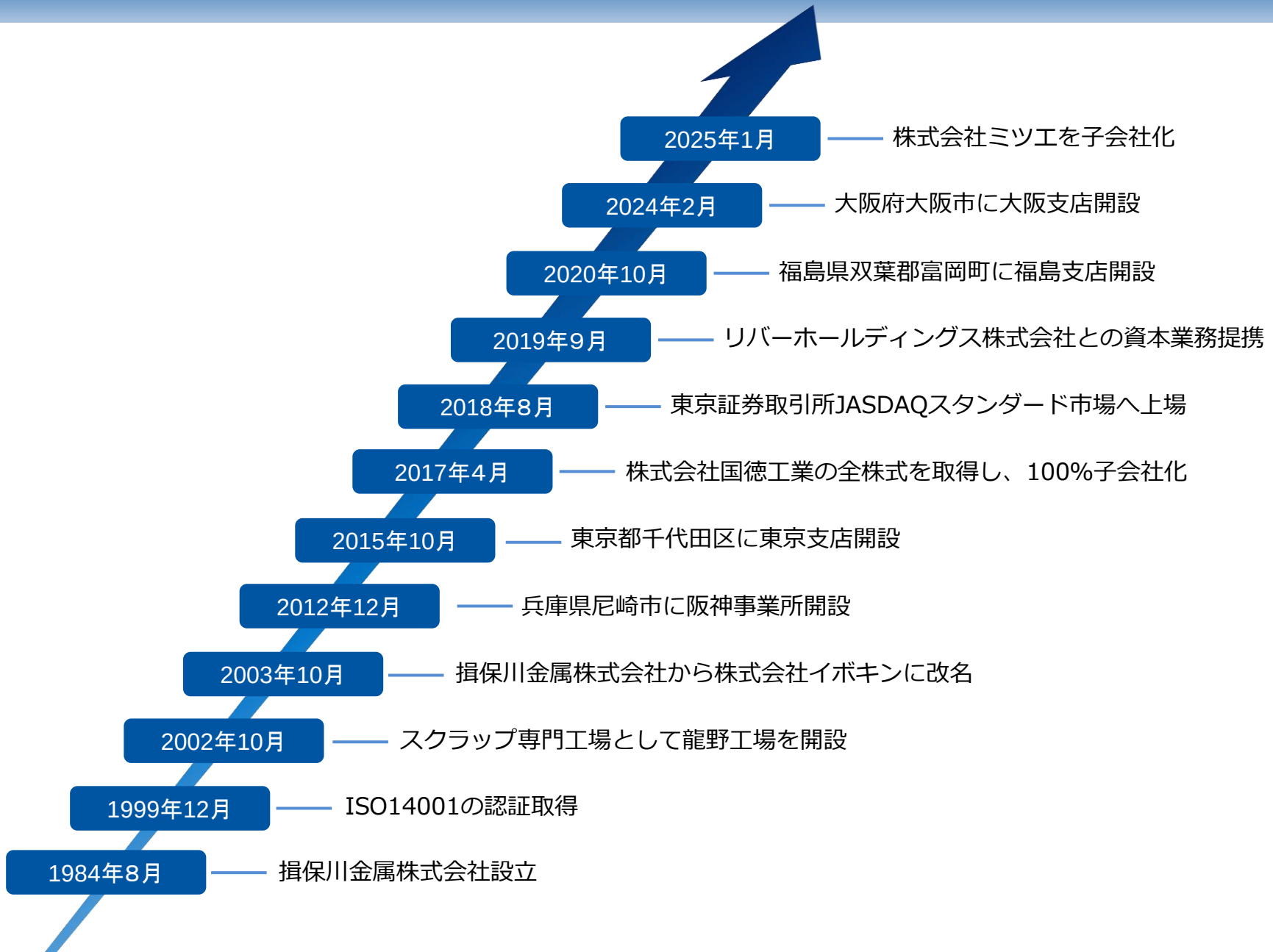


APPENDIX

会社概要

会社名	株式会社イボキン
代表取締役	高橋 克実
設立	1984年８月
資本金	130,598千円（2026年9月30日時点）
従業員数	195名（連結：2026年9月30日時点）
所在地	本　　社　：兵庫県たつの市揖保川町正條379 工場・支店　：本部ビル、本社工場、 龍野工場、阪神事業所、東京支店、大阪支店 福島支店、 ＰＭＲ工場、最終処分場
事業内容	解体事業、環境事業及び金属事業による総合リサイクル事業
グループ企業	株式会社国徳工業、株式会社ミツエ

会社沿革


2025年1月
株式会社ミツエを子会社化
2024年2月
大阪府大阪市に大阪支店開設
2020年10月
福島県双葉郡富岡町に福島支店開設
2019年9月
リバーホールディングス株式会社との資本業務提携
2018年8月
東京証券取引所JASDAQスタンダード市場へ上場
2017年4月
株式会社国徳工業の全株式を取得し、100%子会社化
2015年10月
東京都千代田区に東京支店開設
2012年12月
兵庫県尼崎市に阪神事業所開設
2003年10月
揖保川金属株式会社から株式会社イボキンに改名
2002年10月
スクラップ専門工場として龍野工場を開設
1999年12月
ISO14001の認証取得
1984年8月
揖保川金属株式会社設立

国内事業所

事業所所在地（国内事業所：5　営業所：5）

本部ビル及び本社工場　事業所及び営業所　子会社























事業内容

3つの事業をワンストップで展開

解体事業

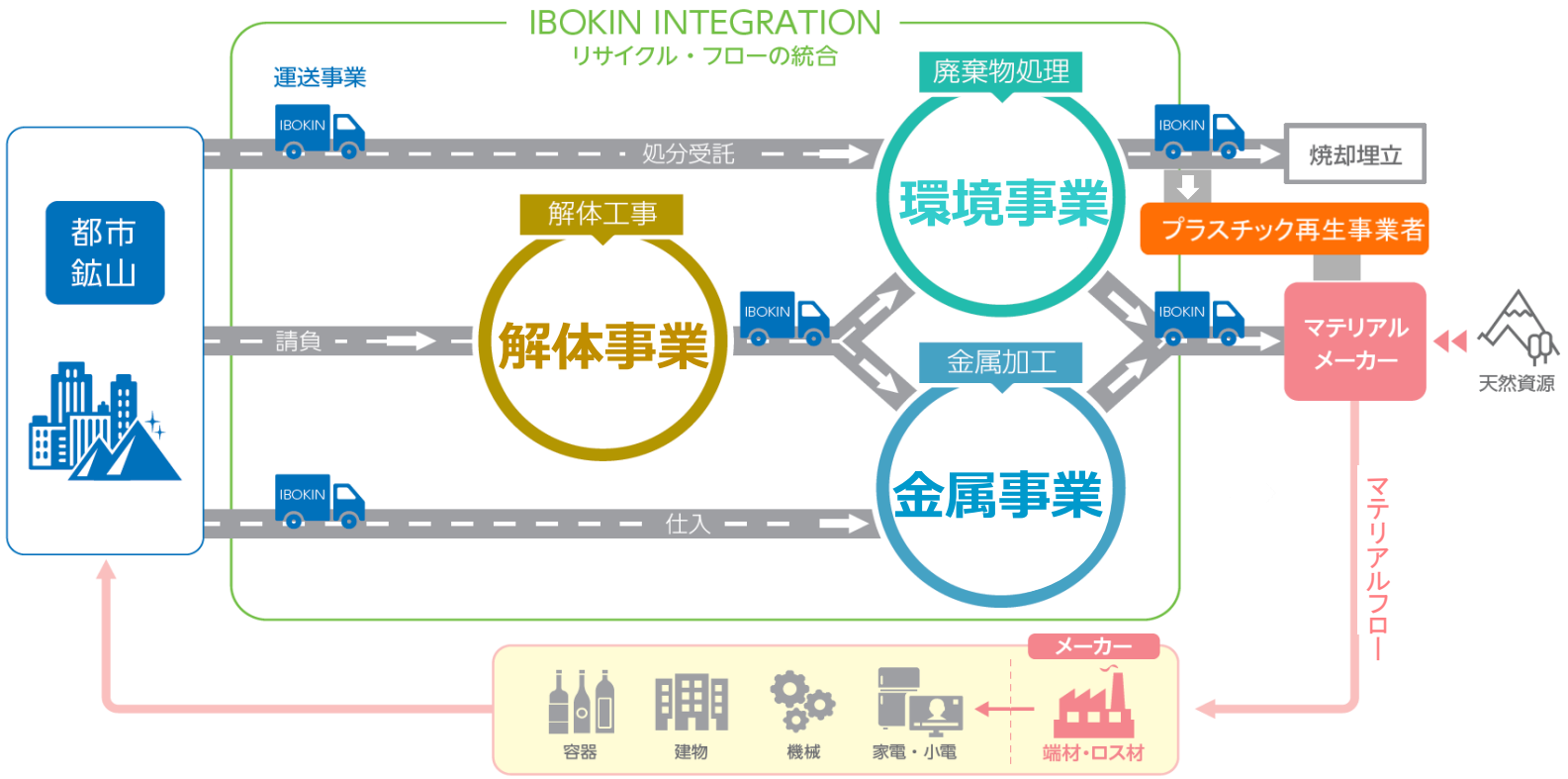
◆建築構造物やプラント・機械設備の解体・撤去工事

環境事業

◆木材・プラスチック等の分別・加工
◆再生資源の製造販売を含むリサイクル
◆産業廃棄物の収集運搬・中間処理・最終処分

金属事業

◆鉄・非鉄等の再生加工及び販売
◆使用済み自動車（ELV:End of Life Vehicle）の解体による再生資源の販売



資源の一生に、夢と責任。

ibokin

本資料における注意事項

本資料は投資家の参考に資するよう、弊社の現状を理解していただくために作成したものです。

本資料には、弊社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これら将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。

様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。

投資を行う際には、ご自身の判断において行っていただきますよう、お願いいたします。